ブラアイチ
～歴史と地形から愛知を知る～

愛知県 建設局 河川課　川瀬（かわせ）　功記（こうき）

1. はじめに

愛知県では，地域のインフラ整備の歴史や地形からまちの成り立ちなどを紹介する，まち歩きイベント「ブラアイチ」を平成 29 年度から実施しています。この取り組みは，人気番組「ブラタモリ」からの連想で，これまで「土木」に関心があまりなかった層にも届くように意図して企画したものです。

2. 背　　景

近年，過去に経験したことのないような水害が全国各地で頻発しています。そのような災害時には，土地のリスクポテンシャルが露見しますが，平常時は，リスクは見えにくくなっています。また，普段の生活においては，洪水の危険性は意識の外に置かれ，河川や地形のことに無関心になっている現状があります。

一方，防災・減災の取り組みとしては，河川改修などのハード整備を進めることはもちろんですが，現在の整備レベルを上回る洪水が起きることを想定し，適切な避難行動を促し，逃げ遅れゼロを目指すことが求められています。

降雨量や水位情報など行政から市民に伝えたい情報を，できるだけ多くの市民の方に適切に届けるにはどうしたらよいのか，他の自治体の皆さんにも共通の課題ではないかと思います。また，ベースとなる知識や情報として防災教育は必要ですが，一過性のものとせず，いかに日常の意識につなぐことができるのかという課題もあります。

これらの課題への対応策の一つとして，防災意識の高い市民の方だけではなく，あまり防災意識の高くない市民の方にも参加してもらい，知ってもらうためにはどうすればよいのかを考えました。そこで，川，地形，防災といった要素に加え，観光や楽しみの要素を入れ，ブラアイチの取り組みを始めました。

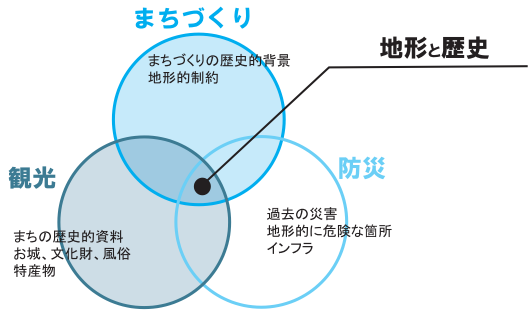
ブラアイチは，後述するように防災だけを目的としている訳ではありませんが，河川課が率先して取り組んでいる理由はそのあたりにあります。

3. 目　　的

ブラアイチは，以下の 3 つを目的の柱として設定しています（図－1）。

・まちの成り立ちを知ることによる「まちづくり」意識の啓発
・過去の災害や地形を知ることによる「防災」意識の啓発
・県内各地への興味を呼び起こすことによる「観光」促進

まち歩きのストーリー作りとコース，ポイント



図－1　ブラアイチの目的

の設定に当たっては，3つの要素をミックスさせて，まち歩き自体を楽しみながら，防災やまちの成り立ちなどの気付きにつながるように企画しています。

また，これらの3つの要素は，歴史と地形という共通項があり，これらを紐解くようにアプローチすることで，面白いストーリー作りに努めています。

4.　実施に向けて

(1)　実施体制（図－2）

県庁河川課に事務局を置き，建設部局の有志職員でプロジェクトチームを組んで企画検討を進めています。

実際の開催に当たっては，県，市町村，NPO等の地元団体と連携，協力して企画および当日の説明や運営を行っています。

開催市町村では，土木部局だけではなく，観光部局，教育部局なども加わって進めることが多いです。

また，有識者として大塚俊幸教授（中部大学），秀島栄三教授（名古屋工業大学），中村晋一郎准教授（名古屋大学）の先生方からアドバイス等をいただき，土木学会中部支部，名古屋地理学会からは取り組み全般への協力をいただいています。

(2)　開催地の選定

ブラアイチを実施したいと希望する市町村で，年間3～4か所程度の開催を目途に場所の選定を行います。開催地が決まったら，前述のまちづくり，防災，観光の目的を満たすことができるようなスポット，ストーリー，コースを設定・作成します。

(3)　開催方法

基本的には，自由散策のまち歩きのスタイルです。

参加者はスタート地点で配布されるブラアイチのコースマップ（図－3）をもとにまちを歩き，各スポットで県・市職員，地元団体，ガイドボランティア等から，そのまちの歴史や地形上の特徴等の説明を聞きます。引率方式ではないため，参加者は自分のペースで，楽しみながら巡ることができます。また，ショートカットや寄り道もできます。

なお，マップなどは県・市の職員が直営で作成しています。

まち歩き以外のスタイルでは，これまでに船によるクルーズも実施したことがあり，今後はバスツアーなどによる開催も想定しています。

(4)　説明スポット

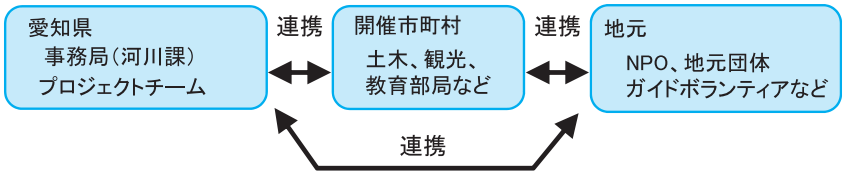
設定する説明スポットを大雑把に分類すると以下のとおりです。

まちづくり：建築，街道，橋

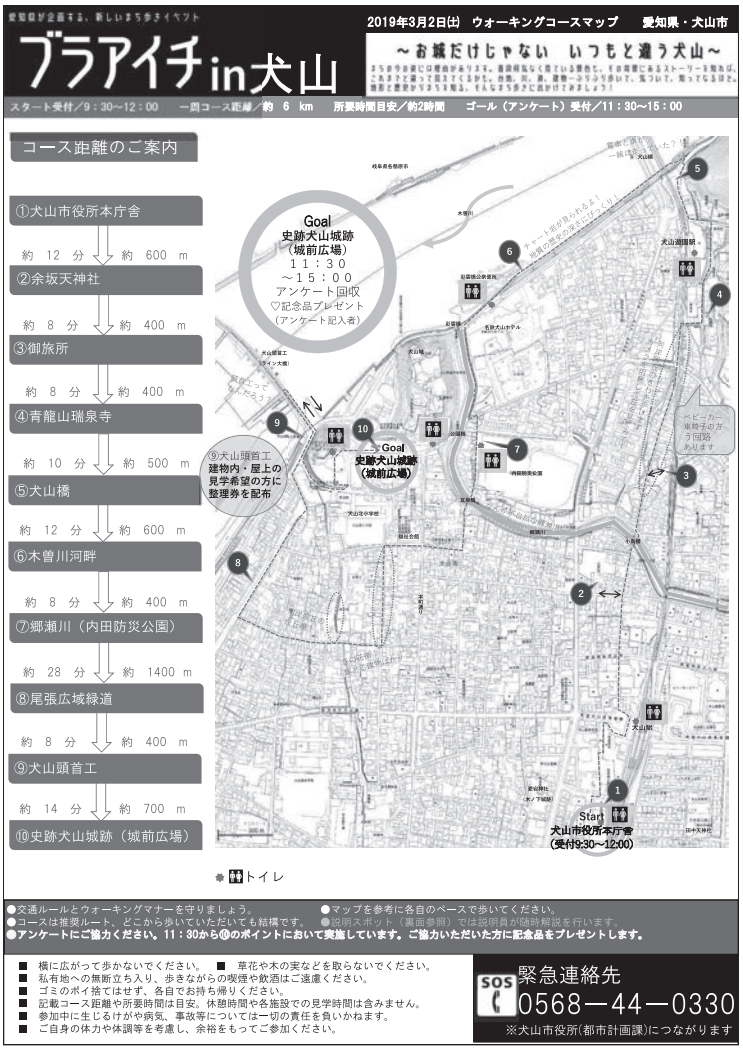
防災：治水の歴史，地形，防災インフラ

観光：神社仏閣，史跡，老舗企業　など

各スポットでは，これらにまつわるエピソードや歴史などを説明し，現在のまちにつながるストーリーを紹介しています。



図－2　実施体制のイメージ



図－3　ブラアイチ in 犬山のコースマップ

(5)　その他機関等の協力

各地の開催に当たっては，これまでに名古屋大学，名古屋経済大学，陸上自衛隊豊川駐屯地，東海農政局，土木研究会，地元企業などから，各スポットでの説明やサービスの提供など，多くの協力をいただいています。

5.　開催状況

これまでに，6 回開催しました（図－4）。なお，他に雨天により中止が 1 回ありました。

開催状況については，開催レポートとコースマップをウェブサイトに公開しています。ぜひ，ご覧いただけると幸いです（本稿末尾にウェブアドレス，QR コードを記載）。

図－4　開催箇所図

(1)　ブラアイチ in 岡崎（写真－1）

・タイトル：天下人ブランド！岡崎の城下町はどうつくられた？
・日　時：平成 29 年 12 月 24 日（日）
・参加者：303 名（途中参加 407 名）
・概　要：川の付け替えなどの河川整備・水害の

写真－1　岡崎（乙川：殿橋の説明状況）

歴史，東海道の整備や矢作川の舟運と地元特産品である八丁味噌の全国への普及の関係，など岡崎のまちの発展と，主に近世の土木インフラ整備の関係を説明。

⑵　**ブラアイチ in 中川運河・名古屋港**

・タイトル：ものづくりを支えた運河と港を船で巡る
・日　時：平成 30 年 3 月 20 日（火）・21 日（水）
・参加者：65 名　※船によるクルーズ
・概　要：中川運河が大正時代以降の物流に果たしてきた役割や，近年の新たな水辺空間の再生の取り組みを船内で説明し，名古屋港では，地形上流れ込む土砂を浚渫し続けなければならないこと，IT 等最新技術を駆使して運営されている現在の名古屋港の姿等を説明。

⑶　**ブラアイチ in 蟹江（写真－2）**

・タイトル：川と水に育まれたまち，蟹江を歩く
・日　時：平成 30 年 6 月 16 日（土）
・参加者：515 名
・概　要：蟹江町はわが国最大の海抜 0 m 地帯を有する濃尾平野の海部地域にあり，今のまちのルーツは微高地である自然堤防沿いから発展したことや，幾重の川が流れ，過去には港町として栄え，川と水によって発展したことなどを説明。

写真－2　蟹江（ゼロメートル地帯の説明状況）

⑷　**ブラアイチ in 豊橋とよがわ**

・タイトル：ブラアイチ× MIZBERING
・日　時：平成 30 年 7 月 7 日（土）
※天候不良により中止

⑸　**ブラアイチ in 碧南（写真－3）**

・タイトル：歴史と潮風の香るまちをブラブラ
・日　時：平成 30 年 11 月 3 日（土）
・参加者：350 名
・概　要：碧南市は台地と低平地で成り立っているが，江戸時代ごろまでは低平地はほとんど海の中にあった。しかし，徳川幕府によって矢作川が付け替えられ，その付け替えられた矢作川によって運ばれた土砂が堆積し陸地を広げ，今の碧南を形成したこと等を説明。

写真－3　碧南（高潮水門の説明状況）

⑹　**ブラアイチ in 犬山（写真－4）**

・タイトル：お城だけじゃない，いつもと違う犬山
・日　時：平成 31 年 3 月 2 日（土）
・参加者：788 名
・概　要：犬山市の木曽川の扇状地としての地形の成り立ちや地質および過去の水害，郷瀬川付け替えなどの説明と，河岸段丘崖沿いを歩くコースとして，観光スポットである犬山城以外の犬山を紹介。

写真－4　犬山（お城を見ながら木曽川沿いを歩く）

⑺　**ブラアイチ in 豊川（写真－5）**

・タイトル：桜薫る，平和のまち，その礎の痕跡を辿るまちあるき
・日　時：平成 31 年 3 月 23 日（土）
・参加者：416 名
・概　要：旧海軍工廠の開設およびそれに合わせて行われた佐奈川の改修工事や，鉄道などのインフラ整備や，戦後，工廠跡地がどのように生まれ変わったのか等を説明。

写真－5　豊川（菜の花の咲く佐奈川を歩く）

6.　効果と期待

⑴　**市民の意識啓発**

それぞれの町の成り立ちや地形の特性，過去からの治水の歴史など，防災にもつながる知識をまち歩きで体感していただきながら，啓発することができています。また，ブラアイチはインフラツーリズムの一面もありますが，土木関心層だけではなく，幅広い方々に，土木インフラを紹介し，理解を促すことができます。

⑵　**職員の知識，理解の向上**

地形や過去の歴史を学ぶことで，その地域やインフラ施設および建設行政への理解を深めることができます。また，地元の職員においても，取り組みを進める上で，やはり知らないことがあったという声が多くあり，地元地域の理解の向上につながっています。

⑶　**県職員，市町村職員のコミュニケーション**

同じ目標に向かって連携，協働することにより，相互のコミュニケーションの向上が図られています。これは，災害などの非常時にも役立つと考えています。

⑷　**地域の魅力の発信**

いわゆる観光地ではないところにおいても，背景のストーリーを含めて見ると，魅力のあるところが各地にあり，それを紹介することができています。

また，主に県内での観光交流のきっかけの一つとなることも期待されます。

7.　今後に向けて

ブラアイチの取り組みは，まだ 1 年半余りが経過したところであり，これからも積極的に県内各地で実施をしていきたいと考えています。また，ブラアイチを通じて得られた地形や防災につながる知識を，職員研修等で共有することも検討しています。

一方，広報および周知については，常に難しい課題ですが，もっと効果的・効率的に実施したいと考えています。

今後も，老若男女を問わず多くの方に参加いただけるよう，楽しさの視点も忘れず，ブラアイチに取り組んでいきたいと考えています。

○ブラアイチ

ウェブサイト：
http://aichi-river.jp/buraaichi/
Facebook：ブラアイチ